

【主題名】 「曲や演奏のよさを理解して聴こう」(全3時間)

【中心教材】 「つるぎのまい」 ハチャトゥリヤン作曲

(音源：令和6年度版小学校音楽 音楽のおくりもの5 鑑賞CD(教育出版)

アラム・ハチャトゥリヤン 指揮 / ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

映像資料：1993年ヴァルトビューネコンサート(Berlin Phil Media GmbH) 小澤征爾 指揮 / ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団)

【主題目標】

曲想及びその変化と、音楽の構造とのかかわりを理解するとともに、曲や演奏のよさを理解しながら、曲全体を味わって聴く。

【主題について】

本主題では、音楽を形づくっている要素の関わりを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くことをねらいとしている。これまでに身に付けた鑑賞の能力を基にして、曲想とその変化などの特徴を聴き取り、自分なりに曲のよさについて考えていけるようにしていくことが重要なこととなる。また、聴き取ったことと想像したことや感じ取ったこととの関わりについて考え、自分なりの言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解することが大切である。

「剣の舞」はティンパニの力強い前奏のあと、木琴の速く激しい旋律が始まり、合いの手にトロンボーングリッサンドが入る。中間部にはサクソフォーンとチェロが妖しげな音楽を奏で、また、はじめの旋律に戻るというABAの三部形式をとっている曲である。個々の楽曲の音色や旋律、リズムが特徴的で、児童にとって曲の面白さを感じ取りやすい曲である。

【評価規準】

<知識・技能>

- ・「つるぎのまい」の曲想及びその変化と音色、旋律、変化、呼びかけとこたえのかかわりについて理解している。(知)

<思考・判断・表現>

- ・「つるぎのまい」の音色、旋律、変化、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことのかかわりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。

<主体的に学習に取り組む態度>

- ・「つるぎのまい」を鑑賞する活動を楽しみながら、主体的・協働的に、曲や演奏のよさを理解して聴く学習活動に取り組もうとしている。

【指導事項との関連】 B鑑賞(1) アイ〔共通事項〕(1)ア、イ

(思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色、旋律、変化、呼びかけとこたえ)

【指導計画】(全3時間)

第1時

- ◎「つるぎのまい」の曲想を感じ取り、音色や旋律など音楽の構造とのかかわりについて理解する。
- 「つるぎのまい」を、曲の特徴を見つけながら全体を通して聴く。
- 曲に合わせて体を動かしたり、主な旋律や伴奏を歌ったりしながら曲の特徴を捉える。
- 音色、旋律、変化、呼びかけとこたえなどを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。
- よさや面白さに迫る一番の音楽のしかけを選び、そのしかけがどんな効果を生んでいるかをワークシートにまとめる。

第2・3時

- ◎「つるぎのまい」から感じ取ったよさや面白さを共有しながら、楽曲全体の音楽の構造への理解を深め、音楽の魅力をさらに見だして、曲全体を味わって聴く。(本時2/3)
- 前時のワークシートにまとめたことを確かめながら、全体を通して聴く。
- 同じ音楽のしかけを選んだ友達とグループになり、互いの考えを共有することで理解を深める。
- 対話を通して深まった考えを他の友達に伝えるように、発表用ワークシートにまとめる。
- 各グループで話し合ったことを発表し合う。
- 「つるぎのまい」のよさや面白さを全体で共有する。
- 学習の成果をワークシートにまとめ、初発の感想と比べて理解の深まりを確かめる。
- 曲や演奏のよさや面白さを確かめながら、曲全体を味わって聴く。

【本時目標】 「つるぎのまい」から感じ取ったよさや面白さを共有しながら、楽曲全体の音楽の構造への理解を深め、音楽の魅力をさらに見いだして、曲全体を味わって聴く。（思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色、旋律、変化、呼びかけとこたえ）

学習活動

◆導入◆

- 本時のめあてを確認する。
- 前時にワークシートにまとめたことを確かめながら、全体を通して聴く。

◆展開◆

- 同じ音楽のしかけを選んだ友達とグループになり、互いの考えを共有することで理解を深める。
※予想されるグループ 旋律・音色・変化
- 他のグループに、自分たちが見いだしたよさを伝えるためにはどうしたらよいかを話し合い、発表用ワークシートにまとめる。
- 各グループで話し合ったことを発表し合う。
（1～2グループ、残りは次時）
- 発表で共有した演奏のよさや面白さを確かめながら、曲全体を味わって聴く。

◆終末◆

1. ロイロノートを用いて、振り返りを行う。
2. 次回の活動の確認をする。

指導の手立て 【★評価】

【「個別最適な学び」を実現するための手立て】

- ・曲に合わせて体を動かしたり、指揮者や演奏者のしぐさをまねしたり、曲に出てくる楽器の音を口で音まねしたり、演奏しているふりをしたりと、自分で選んだ表現で曲の特徴を捉える活動を設定し、音楽への気付きを深める。
- ・タイムバーを活用して、聴きたい部分を繰り返し聴くことができるようにする。
- ・自分が探究したい音楽のしかけを選び、そのしかけが「つるぎのまい」でどんな効果を生んでいるかを考える。

【「協働的な学び」を実現する手立て】

- ・対話を通して互いの考えを交流し、曲のよさや面白さの理解をさらに深めるために、同じ音楽のしかけを選んだ友達同士でグループになる。自分の考えを伝え合い、さらに他のグループにそのよさを伝えるためにはどうしたらよいかを話し合う活動を設定する。
- ・友達の考えやグループの発表がいつでも確認できるよう、ロイロの共有ノートを活用する。

- ・前時の板書を提示しておき、曲の特徴を確認できるようにする。
- ・グループ活動が円滑に進められるようにグルーピングしておく。
- ・前時のワークシートのまとめに価値づけやアドバイスなどをコメントしておき、自信をもってグループ活動に取り組めるようにする。
- ・交流の場面でも、タイムバーを活用して、友達の考えを音楽を聴きながら確かめるようにする。
- ・グループトークで困っていたり、考えが伝えられない様子が見られたりした時には支援に入る。（話を整理する、話例を伝える、発表の仕方を例示するなど）
- ・全体共有では、対話を通して理解が深まったグループを意図的に指名する。
（本時に発表しなかったグループは次時に発表するため、発表内容をまとめておくように指示する）
- ・全体共有の場でも、必要に応じて音楽を聴きながら確かめる。
- ・自分や友達の考えをもとに鑑賞し、新たに気付いたことや曲のよさについて考えたことを発言したり振り返りにまとめたりするよう促す。
- ・振り返りをまとめることが難しい児童には、板書を参考にして共感したことを記入するよう助言する。

★思：「つるぎのまい」の音色、旋律、変化、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。

★主：「つるぎのまい」を鑑賞する活動を楽しみながら、主体的・協働的に、曲や演奏のよさを理解して聴く学習活動に取り組もうとしている。

〈 行動観察、ワークシート、発言、振り返り 〉